

【群馬の中学生 英語4技能スキルアップ事業（3年次：最終） 公開授業】
【西部地区小中一貫外国語（英語）教育充実事業（3年次：最終） 公開授業】
【高崎先端ICT連絡協議会モデル校 公開授業】

英語科学習指導案（1年1組）

日時：令和2年12月4日（金）6校時（14：30～15：20） 場所：〇〇〇
指導者：T1 〇〇〇〇 T2 〇〇〇〇 ALT 〇〇〇〇

＜授業の視点＞（本時11時間目／単元13時間中）

- (1) 自分の得意なことについて書く活動に取り組む際に、これまで身に付けた知識や技能を正確かつ適切に運用して、考えやまとまりのある文章を書くことができていたか。
- (2) アプリ「ロイロノート」を活用して、生徒たちが互いに考えたシンキングツールや英作文を共有し、参考にしながら学習活動に取り組むことは、よりよい英語表現につながるものであったか。

I 単元

1 単元名 「英語で自分の得意なことを紹介し合おう」

(NEW CROWN ENGLISH SERIES 1 Lesson7 Sports for Everyone)

2 単元の目標

【知識、技能】

助動詞 **can** の特徴やきまりを理解しており、得意なことについて簡単な語句や文を適切に運用して書いたり話したりする技能を身に付けることができる。

【思考、判断、表現等】

相手に自分のことを知ってもらうために、英語で自分の得意なことについて考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くとともに、その内容について自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて紹介し合うことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

相手に自分のことを知ってもらうために、英語で自分の得意なことについて考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くとともに、その内容について自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて紹介し合おうとすることができる。

3 単元の評価規準

【知識、技能】

助動詞 **can** の特徴やきまりを理解しており、得意なことについて簡単な語句や文を適切に運用して書いたり話したりする技能を身に付けている。

【思考、判断、表現等】

相手に自分のことを知ってもらうために、英語で自分の得意なことについて考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くとともに、その内容について自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて紹介し合っている。

【主体的に学習に取り組む態度】

相手に自分のことを知ってもらうために、英語で自分の得意なことについて考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くとともに、その内容について自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて紹介し合おうとしている。

II 考察

1 生徒の実態（男子7名、女子11名、計18名）

本学級は英語が得意で意欲的に活動に取り組むことができる生徒が多い。英語検定の取得状況は準2級が○名、3級が○名、4級が○名、5級が○名となっている。また、くらぶち英語村に山村留学している生徒4名は、英語を話したり聞いたりする活動を中心に活躍している。一方、英語を非常に苦手とする生徒も若干名おり、既習表現がほとんど身に付いていない。そのような実態を踏まえ、ペアやグループなどの学習形態や、ロイロノートを活用した学び合いを通じた学習活動を進めていくことが有効であると考えられる。

生徒の知識、技能の定着状況を確認するために、自分の得意なことについて意見や考えを伝える際に有効と思われる英文を書く調査を実施した。具体的には、自分の得意なことを紹介する際に使用が想定される、主語がIの場合に現在形のbe動詞、一般動詞をどう用いるかという文法の知識を活用し、英文を正確に書く技能について、(1)「私は学生です。」(2)「私はサッカーが得意です。」(3)「私はよい選手ではありません。」(4)「私は英語が好きです。」(5)「私は寿司が好きではありません。」(6)「私は日本の食べ物を毎日食べます。」の6つの日本語を英訳させた。その結果、ほとんどの生徒がbe動詞および一般動詞の現在形を使う部分については正しく英訳できた。一方、(1)では冠詞aをつけた生徒が2名と非常に少ない結果となった。また、studentやJapaneseなど、やや綴りの長い単語については、数名の生徒の英文からミスが見られた。支援としては、ディクテーションなどの英文を正確に「聞く」活動や、教科書の音読を中心に正しい英文を意識させ、「読む」「書く」活動を通して綴りや文構造の定着を図り、自己表現につなげられるようにしていく。

次に、生徒の思考、判断、表現等の能力を確認するために、試しの活動として単元の一時間目に既習事項を用いて「自分の得意なこと」について書く活動を行った。その結果、I'm good at～.を用いて得意なことを1つ以上書くことができた生徒は17名、I'm good at～.を用いた英文を数文書いた生徒が8名いた。そのうち、I like～.などの表現を使い、まとまりのある英文でより詳しく紹介できていた生徒は6名いた。試しの活動を終えた生徒の振り返りからは、「綴りのわからない単語がたくさんあった。」「得意なことが思いつかなかった。」「I'm good at～.以外の表現が思いつかなかった。」「いつも英文を書くときに辞書に頼りすぎているので、もっと習った文を真似するようにしたいと思った。」「アイデアが広がらなかった。シンキングツールを使えばもっとよい英文が書けたと思う。」などの、よりよい英文を表現したい記述が見られた。知識、技能の能力でふれた、正確に運用する力を高めるとともに、Small Talkや英文を読んで即興的に自分の意見や考えを話したり書いたりする活動を取り入れながら、生徒の表現の幅を広げていく。また、ロイロノートを有効に活用し、表現共有やシンキングツールの活用を通して、上記の生徒の思いや願いがかなえられるようにしていく。

生徒の主体的に学習に取り組む態度に関しては、「あなたは英語で自分の得意なことを伝え合う活動に意欲的に取り組めそうですか。」と質問したところ、17名の生徒が「はい」「どちらかといえばはい」と回答した。主な理由としては、「得意なことを考えると気持ちがポジティブになれるから。」「英語が好きで、表現力が高まると思うから。」「これまで学習した表現が使えるから。」などが挙げられた。残りの1名の生徒については、「得意なことを考えるのは苦手だから」と回答しており、そのような気持ちを述べた生徒は全部で5名いた。また、「英語の授業でi-padやロイロノートを使うことは、有効だと感じていますか。」という質問に対しては、18名全員の生徒が「はい」「どちらかといえばはい」と回答した。主な理由については、「クラスみんなと意見共有ができるから。」「他の人の意見を取り入れたり比べたりしやすく、自分の考えもまとめやすいから。」「わからない単語の綴りや発音を調べられるから。」「シンキングツールを使って情報が整理できるから。」などがよさとして挙げられていた。また、それ以外にもインターネットを活用した調べ学習にも使うことができることをよさとして挙げていた生徒もいた。本単元ではインタビューテストの前の時間に生徒同士で練習を行う際に動画を撮ってアドバイスする活動を考えており、タブレットPCの有効な場面をさらに実感させていきたい。

2 教材観

本単元の中心的言語活動は、自分の得意なことやそれに関連する意見や考えについて伝え合う学習活動である。主に取り上げる言語の働きは「説明する」「意見を言う」「質問する」とし、理由や例などを交えながらより具体的な紹介をしていく。

本単元で扱う新出言語材料は、助動詞 can である。主教材として用いる教科書「Lesson7 Sports for Everyone」では、教科書の登場人物が自分の身近な人について“*He can play basketball well.*”のような英文を用いて得意なことを説明したり、車いすバスケットボールなどの様々なスポーツのことについて“*Can you move easily in the chair?*”や“*They cannot hold it too long.*”のような英文を用いて相手に質問したり説明したりしている。そのような目的や場面、状況に合わせて英語で表現している設定はそれらの言語材料の使用場面とのつながりや働きについての知識を身に付けるうえで大変参考となるものとなっている。身に付けた知識については、様々な活用場面を設定し、生きて働く知識にできるよう支援していく。具体的には、教科書に出てきた英文等を自分の得意なことに置き換えて紹介したり、新出単語を活用して自分のことを紹介する英文を作る活動を通して、併せて、「ロイロノート」の様々な機能を活用し、クラスメイトの作った英文を参考に自分の間違いに気付いたり、よりよい英語表現に気付いたりすることで、正確に知識を運用する技能も身に付けることができると思う。

単元のまとめの活動として行う、自分の得意なことやそれに関連する意見や考えについて伝え合う学習では、自分の意見や考えを述べる活動を行う。その際、より具体的な例を交えて1つ1つのことを説明したり、相手意識をもって活動に取り組んだりすることで、どのような構成にすれば相手により伝わりやすいかを考えたり、自分の意見の根拠となる理由や具体例を交えたりすることの必要性が生じる。それらを意識して様々な活動に取り組むことは、生徒の思考力や判断力を高め、英語の表現力を高めることにつながる。

本単元は、中学校1年生の2学期を締めくくる内容である。中学1年生の1学期は、主に自己紹介ができるようになるために便利な表現を学び、2学期は身近な人などのことをより詳しく紹介したり、様々な疑問文を学習したりしており、本単元の学習を経て、生徒たちはさらに多くのことが紹介できるようになると考える。また、自分の得意なことについて考え、紹介し合うことは、自己肯定感を高めるとともに、お互いのことを今まで以上によく知り、クラスメイトとよりよい人間関係を築こうとする意欲や態度にもつながる。さらに、必要に応じて「ロイロノート」を活用し、お互いに学び合ったり、シンキングツールを効果的に活用して自分の考えを深めたりすることで、より自分の思いが伝わる紹介ができるようにしていく。このことは、生徒が自分の意見や考えを伝えたい、あるいは他の生徒の意見や考えを聞きたいという学びに向かう姿勢をよりよいものにし、意欲を高めることにつながる。

以上のように本単元の学習は、外国語における簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することにつながる、意義あるものと考え、本単元を設定した。

3 校内研修との関わり

本校では「自他の考えを認め、理解することでよりよい生き方を求める生徒の育成～発問構成と対話的な学習活動の工夫を通して～」を主題として今年度の校内研修を実施している。対話的な学習活動については、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から活動時間等が限られているが、生徒の学びを深めるために、対策を万全に講じて可能な限り取り入れていく。

学習形態の工夫としては、Small Talk や新出言語材料を使って英語で会話をする活動では、ペアでの活動を行うが、その際、縦ペア・横ペア・斜めペアと、相手を代えながら何度も取り組むことで、他の生徒から学んだ表現を自分で使えるように工夫していく。また、4人1組でのグループ学習を取り入れ、わからないことを質問し合ったり、お互いに思いついたアイデアを相談し合ったりしながら、より内容の濃い表現活動ができるようにしていく。

発問構成の工夫としては、1時間の構成の仕方として、できるだけ「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能のうち、複数を組み合わせた授業構成を考えていく。その際、小学校でも主に導入してきた「聞く」「話す」の音声言語を中心とした学習から導入し、「読む」「書く」といった、文字言語を中心とした活動に発展させていくようにする。また、指示や説明ができるだけ簡潔に済むように、教師によるデモンストレーションを示し、スムーズに活動に入れるようにしていく。

1人1台のi-padの活用については、主に、「ロイロノート」を利用して全体指導とグループ学習のよさを活かした学習形態の工夫を可能にしていき、限られた時間の中で学び合いが充実するようにしていく。

Ⅲ 指導方針（☆は特にICT機器を活用した授業実践に関わるもの）

- ・単元の学習前と学習後に同じ活動を行うことで、学習して身についた内容を実感できるようにするために、単元の第1時では「試しの活動」として、生徒が既習表現を用いて単元の最後にまとめとして行う活動を設定していく。
 - ・帯活動では、主に即興的に英語を「聞く」「話す」ことで、表現（やりとり）と理解の能力を高めることを目指した「Small Talk」と、単元で質問する活動での使用が予想される単語を正確に覚え、英文を表現する際に適切に運用できることを目指した「英単語ビンゴ」を行う。また、回数を重ねるごとに難易度を上げたり取り組み方に幅を持たせたりして、生徒が向上心をもって意欲的に取り組めるようにする。
 - ・教科書本文の内容を確認する活動では、音読を核として授業を進めることで、モデルとして理解を深め、単元の最後の活動で生かせるようにしていく。そのために、新出単語の読み方及び意味の確認を行ってから、まずは本文の読み方や意味を確認し、新出言語材料の使用場面とのつながりや働きの理解を深める。その後、「Read and Look up」や「暗唱」に取り組むことで、会話の中で自然と表現が使用できることを目指す。
 - ・新出言語材料の用法の理解を確認する活動では、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を統合した活動を行い、自分で使うことができることを目指す。具体的には、小学校英語で主に高めてきた英語を「聞く」「話す」活動から導入し、即興的なやりとりの中で使用場面とのつながりや働きの理解を深め、その後文字を介して「読む」「書く」活動を行い、正確さを伴ってより確実に理解を深められるようにする。
 - ・新出言語材料のまとめを行う際は、生徒の気づきを全体で共有し、教師が補足をしながら、生徒の言葉で学びが得られるように支援する。
 - ・「Small Talk」や単元の最後の活動など英語を「聞く」「話す」会話活動を行う際は、生徒が使用した表現を全体で共有し、繰り返し取り組む機会を保障する中でよりよい会話内容を目指して取り組めるようにし、学び合いの中で表現力を高めていけるようにする。
- ☆「ロイロノート」を適宜活用し、既習事項を用いて自分の意見や考えを伝える場面で有効な表現を限られた時間で共有できるようにする。特に、「シンキングツール」を活用して自分の考えを整理したり、「英語の紹介文」をお互いに読み合ってよさを取り入れたりしながら単元の最後にまとめとして行う表現活動での活用を進めていくことで、よりよい構成や根拠となる理由、具体例などを話したり書いたりできるようにする。

Ⅳ 本時の学習

1 ねらい

自分の得意なことを紹介する英文について、クラスメイトとお互いの英文を読み合いながらよさを取り入れ、より考えや構成にまとまりのある英文を書くことができる。

2 準備

- 生徒 教科書、ノート、ファイル、Talk and Talk、さくさく Writing、Bridge、自己評価シート、i-Pad
- 教師 教科書、Talk and Talk、さくさく Writing、Bridge、i-Pad、ピクチャカード

3 展開

過程	学習活動	時間	支援・指導上の留意点
	・予想される生徒の姿		☆支援を要する生徒への手立て
	○あいさつをする。 日直が曜日、日付、天気、時間などの質問に答える。	2	・授業前の様子や気持ちを教師と生徒でやりとりしながら、できるだけ明るい雰囲気 で授業を始められるようにする。
帯活動	○「Small Talk」に取り組む。 (1) 教師3人によるロボットの紹介を聞く。 (2) 聞いた内容についてわかったことを話す。 (3) 紹介文を読んで内容を確認する。 (4) ペアで好きなロボットについて話す。 (5) 代表生徒が教師と会話をする。 ・前回の授業では Bridge13 で Super Robot について Small Talk をしたな。今日はその時に使ったり覚えたりした表現を使って会話をするぞ。	15	・前時に Bridge13 “Super Robot” で似たような活動を行い、ロボットの得意なことや、それに対する自分の意見や考えについての英語表現に気付かせ、本時での活用につなげていく。 ☆ペアで話す際は縦・横・斜めとパートナーを変え、3回取り組めるようにすることで、その場で知ったり気付いたりした表現を使えるようにし、定着を図れるようにする。
課題確認	○本時のめあてを知る。	3	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><Today's Goal> クラスメイトとお互いの英文を読み合い、よさを取り入れ、よりよい英文を書こう！</p> </div>		
	・前回の授業では、シンキングツールで整理した自分の得意なことを英語にしたな。試しの活動よりはよく書けたけれど、他の人はどんなことを書いたのだろう。		・めあては前時までの学習を生徒と振り返り、やりとりをしながらできるだけ生徒から引き出すことで、本時で特に意識したいことを具体化できるようにする。
自己解決	○前時にロイロノートで提出したクラス全員の英語の紹介文を読み、内容や表現の工夫でのよさを見つける活動を行う。 ・and や but を付けると、紹介の内容がイメージしやすいな。 ・first や second を使うと、聞く人や読む人がわかりやすくていいな。 ・for example を使って例が示してあると、説得力が増すな。	10	・内容のよさだけにならないように、シンキングツールを作る際にあらかじめ接続詞や序数など論理構成上有効な表現について紹介しておく。 ☆クラスメイトの英語を読むことが困難な生徒については、自分の書いた英文と同じような英文を比較させる。また、近くの生徒と話し合う時間を設け、少しでも情報が得られるようにする。
集団解決	○お互いの英語の紹介文を読んで見つけたよさを発表し、学級全体で共有する。 ・他のクラスメイトも自分と同じように and や but などの接続詞を使った英文や、first や second、for example などの入った紹介がわかりやすいと言っている。これらを自分の書いた紹介文に生かして、もっとよいものになりたいな。	5	☆学級全体でよさを共有する際は、ロイロノート上で画面配信を行い、実際に英文にマーカーで線を引くなど視覚的に理解しやすい支援をする。 ・生徒から有効な表現に対する意見があまり出なかった場合は、教師が内容や論理構成上よく書けている紹介文のよさを取り上げながら全体の前で発表する。

ま と め ・ 振 り 返 り	○授業で共有したことを参考に、本時のまとめとして、自分の得意なことについて表現する。	15	
	<p><まとめ (例) ></p> <p>I like origami . I have two reasons . First , I'm good at origami . And I can make many things with origami . For example , cranes , peacocks , reindeer , and so on . I like reindeer very much . Second , we can enjoy origami for a long time . I have some books about origami . They are very interesting</p>		
	○教師は、生徒がクラスメイトとお互いの紹介文を共有し、自分の英文をより論理的な構成にしたり、表現方法を工夫したりしようとしているか否かを評価する。〔観察・ロイロノート〕		
○自己評価を行う。 ・今まで習ったことも今回新しく習ったことも含めて、自分の得意なことについて意見や考えを伝える時に使える表現はたくさんあるな。		☆書く活動を行う際は再び自力解決を中心とし、本時で学んだことを意識させながら取り組ませる。また、本時の学習で書いたことを単元の最後の活動に生かせるようにし、単元を通した学びを実感できるようにしていく。	

<本時の評価規準>

【知識、技能】

助動詞 can の特徴やきまりを理解しており、得意なことについて簡単な語句や文を適切に運用して書く技能を身に付けている。

【思考、判断、表現等】

相手に自分のことを知ってもらうために、英語で自分の得意なことについて考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。

【主体的に学習に取り組む態度】

相手に自分のことを知ってもらうために、英語で自分の得意なことについて考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書こうとしている。

単元構想 英語科 1年 (「英語で自分の得意なことを紹介し合おう」(NEW CROWN ENGLISH SERIES 1 Lesson7 Sports for Everyone)) 11月~12月 全13時間予定

単元の目標		単元の系統			単元の系統							
<p>【知識、技能】 助動詞 can の特徴やきまりを理解しており、得意なことについて簡単な語句や文を適切に運用して書いたり話したりする技能を身に付けることができる。</p> <p>【思考、判断、表現等】 相手に自分のことを知ってもらうために、英語で自分の得意なことについて考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くとともに、その内容について自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて紹介し合することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 相手に自分のことを知ってもらうために、英語で自分の得意なことについて考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くとともに、その内容について自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて紹介し合おうとすることができる。</p>		<p>New Crown 1 Lesson1 I am Tanaka Kumi 英語で自己紹介をしよう(I am ~.)</p>			<p>New Crown 1 Lesson2 My school 英語で身の回りのものを紹介しよう(This is ~.)</p>							
		<p>New Crown 1 Lesson3 I like Soccer 英語でより詳しく自己紹介をしよう(I play ~.)</p>			<p>New Crown 1 Lesson5 Our New Friends 英語で相手に質問をしよう(Who / When / Where)</p>							
		<p>New Crown 1 Lesson7 Sports for Everyone 英語で得意なことを紹介し合おう(I can ~.)</p>										
<p>【知識、技能】 ほとんどの生徒が be 動詞や一般動詞の現在形についてのきまりや特徴を知識として理解し、英文にする技能が身に付いている。一方、冠詞などを正確に運用する技能については、身に付いていない生徒が多く見られる。</p> <p>【思考、判断、表現等】 I'm good at ~. を用いて得意なことを表現できる生徒は多くいるが、まとまりのある英文を書いて表現したり、複数の得意なことについて表現したりできる生徒は学級の3分の1程度である。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ほとんどの生徒が自分の得意なことを英語で紹介する活動に前向きに取り組もうとする意欲がある。授業でのタブレット PC の活用についても、意見の共有などでその有効性を実感している生徒も多い。</p>												
小単元	時間	ねらい	主な学習活動	主な支援・指導上の留意点	評価計画【評価方法】	評価の観点						
つかむ	1	○既習事項を用いて英語で自分の得意なことを紹介する活動に取り組み、現段階での目標達成に向けた課題を知り、本題材の学習後の目指す姿を意識することができる。	○試しの活動として、自分の得意なことを英語で紹介する活動を行い、これまでの学習内容でできたことやできなかったことを知り、本単元での自分の学習目標を立てる。	○単元の最初に試しの活動として単元の最後に行う活動を取り組むことで、粘り強く学習に取り組んだり、自身の学習を調整したりできるようにする。 ○単元での自分の目標を立てる際は、学習態度と学習内容に分けて設定させることで、「何を学か」だけでなく「どのように学ぶか」を意識できるようにする。	<p>◇記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確認に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにはならないよう十分留意する。</p> <p>◇第1時~第9時については、授業時の生徒の取組の観察、毎時間の生徒の自己評価の記入、ロイロノートで生徒が提出した課題、生徒のノートの記述の様子を指導に生かすために教師が把握する。</p>	知	思	態				
追究する	2	○教科書 P88 の本文の内容理解の学習を通して、助動詞 can を用いた肯定文の使用場面とのつながりや働きに気付くことができる。	○教科書 P88 の本文について、新出単語や本文の内容を確認するとともに、助動詞 can を用いた肯定文の使用場面とのつながりや働きについて考える。	○教科書本文の内容について音読練習を中心に理解を深めることで、自信をもって発音し、使用場面とのつながりを理解できるようにする。 ○教科書内容を確認してから新出言語材料の確認を行うことで、使用場面とのつながりや働きに気付きやすくする。								
	3	○教科書 P90 の本文の内容理解の学習を通して、助動詞 can を用いた疑問文や否定文の使用場面とのつながりや働きに気付くことができる。	○教科書 P90 の本文について、新出単語や本文の内容を確認するとともに、助動詞 can を用いた疑問文や否定文の使用場面とのつながりや働きについて考える。	○教科書本文の内容について音読練習を中心に理解を深めることで、自信をもって発音し、使用場面とのつながりを理解できるようにする。 ○教科書内容を確認してから新出言語材料の確認を行うことで、使用場面とのつながりや働きに気付きやすくする。								
	4	○助動詞 can を用いた英文を繰り返し「聞く」「話す」「読む」「書く」活動に取り組み、英文の特徴やきまりについて気付くことができる。	○Talk and Talk ²² を用いて、助動詞 can を用いた英文について、使用表現を少しずつ変えて繰り返し言い換え練習を行い、語順等の文法理解を深めるとともに、自己表現に取り組む。	○言い換え練習では、音言語による導入から文字言語を介した練習の流れを意識するとともに、ペアやグループでの学び合いの場面や、実際に会話をする場面を繰り返し設定することで、前時で理解した使用場面とのつながりを意識して話すことができるようにする。								
	5	○教科書 P92、93 の内容を読んで内容を理解し、助動詞 can を用いた英文とその他の関連する情報について述べた英文のつながりや表現方法に気付くことができる。	○教科書 P92、93 の本文について、おおまかな内容を読み取って内容を確認し、自分の得意なこととその他の関連する情報を述べる際に有効な表現を確認する。	○読み物教材の内容理解を目指した学習では、限られた時間の中でおおまかな内容をつかませることで、精読と速読の両方を心がけられるようにする。 ○教科書本文の中で単元のまとめの活動で有効な表現が実際に使われていることに気付かせることで、生徒自身の運用につなげられるようにする。								
	6	○本単元で学習した助動詞 can を用いた英文の使用場面とのつながりや働きについてまとめ、その特徴やきまりについて正確に理解することができる。	○新出言語材料である助動詞 can を用いた英文の使用場面とのつながりや働きについて気付いたことや考えたことを共有し、ノートにまとめる。	○新出言語材料の使用場面とのつながりや働きについて理解できるよう、自然な場面を設定しながら内容を確認する。 ○生徒個人が気付いたことを学級全体で共有しながらノートに丁寧に書かせることで、語順や文構造などの特徴や決まりの理解を深められるようにする。								
	7 ロイロ	○助動詞 can を用いた英文が使われた場面について、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を統合した活動を行い、理解した内容について自分の意見や考えを表現することができる。	○助動詞 can を用いた英文を含んだ、まとまりのある文章を聞いたり読んだりして内容を理解し、教科書 P94、95 を参考に状況や場面に応じて自分の意見や考えを伝えるやりとりをする。	○会話を広げるために質問をしたり、情報を付け加えたりすることが有効であることを確認し、生徒同士のやりとりが内容を伴って充実するようにする。 ☆ロイロノートを活用して自分の意見や考えをメモしたり、クラスメートの意見や考えなどを共有したりすることで、より正確で適切な英語表現ができるようにする。								
	8	○英語で自分の得意なことを紹介しているモデル文を読んで内容を理解し、紹介文を書く際に有効に活用できる表現の用法を正しく理解することができる。	○さくさく Writing ⁷ を用いて、既習事項を用いて表現できることを確認したり、モデル文を読んで内容を理解したりして、自分の得意なことを紹介する際に有効な表現を確認する。	○既習事項を用いて表現できることを確認する活動では、文法知識の正確な理解を重視して文を正しく書けるようにする。 ○モデル文を読んで内容を理解する活動では、助動詞 can を用いた英文とその他の英文を合わせてより詳しい情報を表現していることに気付かせられるようにする。								
	9 ロイロ	○シンキングツールを用いて、英語で自分の得意なことを紹介する英文を書くうえで自分の考えを整理して、文章構想を考えることができる。	○自分の得意なことを紹介するにあたって、シンキングツールを使って自分の得意なことの事実や情報、意見、考えを整理し、文章構成を考える。	☆シンキングツールについては、思考を広げる際に有効な例としてマッピングやフィッシュボーン、バタフライチャートなどを見本として提示するが、強制しないこととする。また、ロイロノートの1枚のカードに1枚の情報を書き、自由に並び替えられるようにすることで、より自分の考えを整理したものができるようにする。								
まとめる	10 ロイロ	○シンキングツールを用いて考えた文章構想をもとに、これまでの学習で学んだり確認したりした表現を用いて英語で自分の得意なことを紹介する英文を書くことができる。	○シンキングツールを使って整理した、自分の得意なことの事実や情報、意見、考えについて、学習したことを生かして、英語でまとまりのある文章を書く。	☆自分の得意なことを紹介する英文を書く際には、これまでの学習で読んだ英文を参考にしながら自分のことに置き換えたり、追加の情報を加えたり促すことで、より正確な英文を書けるようにする。 ☆ロイロノートで授業後に英文を提出させ、個別支援ができるようにする。					◆教師は、生徒が自分の得意なことの事実や情報、意見、考えについて、シンキングツールを有効に活用して英文を書くことができているか否かを評価する。 【観察・ロイロノート】	○	○	○
	11 (本時) ロイロ	○自分の得意なことを紹介する英文について、クラスメイトとお互いの英文を読み合いながら良さを取り入れ、より考えや構成にまとまりのある英文を書くことができる。	○自分の得意なことについて紹介した英文をクラスメイトと共有し、お互いの文章の内容や表現のよさを学級全体で確認しながら、自分の文章をよりよいものにする。	☆ロイロノートを活用してクラスメートの英文を読む際には、英語表現自体のよさだけでなく、英文の順序や論理的な構成上有効な表現にも着目させ、聞き手や読み手にとって伝わりやすい英文が書けるように促していく。 ☆ロイロノートで授業後に英文を提出させ、個別支援ができるようにする。					◆教師は、生徒がクラスメイトとお互いの紹介文を共有し、自分の英文をより論理的な構成にしたり、表現方法を工夫したりしようとしているか否かを評価する。 【観察・ロイロノート】	○	○	○
	12	○前時までに書いた英文をもとにクラスメイトと自分の得意なことを紹介し合ったり、質問し合ったりしながら、よりよい紹介ができるように工夫することができる。	○4人1組でグループを作り、話し手と聞き手、参観者の役割を交代しながら、気付いたことをアドバイスし合い、パフォーマンステストに向けて改善を図る。	○聞き手や参観者の役割を体験することで、より他者意識をもって自分の得意なことを紹介しようとする意欲が高められるようにする。 ○クラスメイトから自分の紹介に対して質問してもらったり、他のクラスメートの紹介に対して質問したりしながら、考えや構成について再度改善を図れるようにする。					◆教師は、生徒がクラスメイトと自分の書いた紹介文をもとに得意なことを紹介したり、聞いた内容について質問し合ったりしながら、発表態度や内容をよりよいものにしていくか否かを評価する。 【観察・ロイロノート】	○	○	○
	13	○前時までに書いた英文をもとに ALT に自分の得意なことについて紹介したり、ALT からの質問に答えるやりとりをしたりすることができる。	○ALT とパフォーマンステスト形式で「自分の得意なこと」について紹介するとともに、ALT からの質問に対して答えながらやりとりをする活動に取り組む。	○ALT とインタビュー形式で自分の意見や考えを伝えるという場面や状況、目的を設定することで、本音を交えた会話ができるようにする。 ○ALT からのフィードバックをもらうことで、自分のできたことを自信につなげると共に、今後の学習への意欲が高められるようにする。					◆教師は、生徒が誤りのない正しい英文で、事実や情報、考えについて整理した自分の得意なことを紹介したり、ALT からの質問に答えたりしているか否かを評価する。 【パフォーマンステスト】	○	○	○
単元の評価規準												
<p>【知識、技能】 助動詞 can の特徴やきまりを理解しており、得意なことについて簡単な語句や文を適切に運用して書いたり話したりする技能を身に付けている。</p> <p>【思考、判断、表現等】 相手に自分のことを知ってもらうために、英語で自分の得意なことについて考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くとともに、その内容について自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて紹介し合っている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 相手に自分のことを知ってもらうために、英語で自分の得意なことについて考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くとともに、その内容について自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて紹介し合おうとしている。</p>												